

## 折々の記 No204 : 新政権への期待！

(H24/12/22 記)

年末の解散総選挙の結果は、各マスコミの予想通りであった。民主党に政権を与えてやらせてみようという壮大な実験はものの見事に失敗に帰した。自民党の単独過半数は、自民党に対する期待ではなく、民主党に失望した国民が、消去法によって自民党しかないと判断した結果に他ならない。相も変わらずの大衆迎合主義の嘉田（小沢）未来の党に対しては、そのポピュリズムに懸念を感じた国民が鉄槌を下したと断じ得る。国民は成長したのであり、勝つためなら悪魔とでも手を結ぶ小沢氏はそれを見誤ったのだと云える。

維新やみんなの党がそれなりに躍進したのも自民党回帰が民意ではないことの証左であろう。

安倍自公政権が近々に発足するが、その発足前から、安倍氏は始動しており、発足と同時に日本再生に向けて本格的な活動が始まるものと思われる。

安倍政権に期待するところを述べたい。

- 1 参議院選挙で勝利してこそ本格的な政権たり得ることを自覚した  
政権運営を！

国民の気持ちは移ろい易いものである。やっぱり自民党でも駄目だったで は日本の直面する国難は救われない。政権奪還に奢ることも気を緩めることもなく、安全運転に徹し、結果として国民の信を得られる政権運営を望む。

衆参ねじれ状態を解消しない限り、安倍氏が考える日本再生はない筈だ。その為の環境整備が重要だ。国民の真の信頼を得ることが肝要なり。

- 2 韓国との関係改善は苦渋の判断！

竹島の日の式典の慎重な検討、就任前の特使派遣が報ぜられている。ある意味においては民主党と同じ弱腰外交ではないかと批判もあるが、対中戦略という観点で考えると止むを得ない。本来であれば、自民党らしく毅然とした対応をすべきであるが、大戦略の為には、止むを得ない苦渋の選択をしなければならない時もある。

韓国は、日本側のこのような真意を理解し、大局に立って関係改善に取り組むべきだ。彼らが飽く迄も実効支配を強化し、日本を非難すれのであれば、日韓の亀裂は決定的となり、それはひいては中国を利することになるものと知るべきだ。

- 3 対中戦略の強力遂行を！

云うまでもなく、21世紀の最大の課題は中国に如何に立ち向かうかである。日米同盟を基軸に韓国、台湾、ASEAN、印、豪との連携を図らねばならない。毀損した日米同盟を立て直すことが急務である。米国では、尖閣諸島は安保条約の対象範囲であることを明記した国防権限法が成立した。米国は日本自身が真剣に尖閣を守ろうとしない限り、日本を助けることは有り得ない。日本側が真剣に防衛努力を行わねばならないし、尖閣が中国に奪取されることのないように、実効支配の強化に努めるべきだ。更 に 留意すべきは、関係諸国との連携強化の推進だ。

- 4 ロードマップを策定し、着実な政策遂行を！

新政権は最大限4年間の任期が与えられた訳であり、来夏の参院選後に安定政権を確立してからであれば、3年半近い任期があることになる。この3年半に安倍首相は彼の信念に基づく政策を着実に遂行して欲しい。如何なる政策をどのような優先順位で行うか、そしてその政策遂行のための環境整備をどう実施するかを第二次安倍内閣としてのロードマップを策定して貰いたい。

5 現行選挙制度は妥当か、検討すべきでは？

小選挙区制の最大の利点は、二大政党制になり、民意が直接反映するということであるが、それは即ちポピュリズムに陥り易いということでもある。当選せんが為に、選挙民に媚を売る政治家が当選しやすいのだ。国民が成熟していないと云えばそうであるが、これが我が国の現状であるならば、選挙制度の改正も止むなした。